

平成26年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議

日 時 平成26年7月31日（木）15:00～

場 所 大手町平和ビル5階小会議室

○山本都市デザイン係課長補佐

ただいまから平成26年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議を開会いたします。
それでは、会議に先立ちまして、都市計画担当部長の香川から、一言、皆様に御挨拶いたします。

○香川都市計画担当部長

皆さん、こんにちは。都市計画担当部長の香川でございます。委員の皆様には、お忙しい中、アドバイザー会議に御出席いただきましてありがとうございます。

本日、都市デザイン担当課長が急な出張で、今日は出席しておりませんので、私のほうで一言御挨拶をさせていただきます。

本市では、広島を伝える魅力的な資源、また、豊かな水と緑に恵まれた自然を生かした個性的で魅力ある景観形成を図り、美しく品のある都市景観の創出に取り組んでおります。本年の7月4日には、政令指定都市ではしんがりになりますけれども、景観法に基づく景観計画を告示いたしました。そして、合わせて条例も改正いたしまして、来年の1月1日から運用開始することにしております。また、このアドバイザー会議につきましても、改めて気を引き締めて臨む所存でございます。

さて、本日の議事になっております広島駅自由通路と広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキにつきましては、神社、仏閣、史跡など、歴史文化遺産が数多くあり、緑豊かな二葉山を望む位置に整備いたすものでありまして、この地区につきましては、豊かな自然と歴史資源を大切に、これらと調和した町並みを形成すること、合わせて広島の陸の玄関にふさわしい美しい都市景観を形成することが必要であると考えております。

先日、二葉の里地区の国有地の売却が全て完了いたしました。今後、この地区の工事が本格化してまいります。ペDESTリアンデッキと自由通路につきましては、これまで2回にわたり、この会議におきまして貴重なアドバイスをいただき、本市の陸の玄関にふさわしい都市景観を形成する施設になるものと期待しております。

本日は、皆様からいただきましたアドバイスを踏まえ、検討してまいった結果を報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、私の挨拶といたします。本日はよろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

続きまして、この度は、委員改選後、初めてのアドバイザー会議でございますので、委員の皆様を御紹介いたします。

お手元の資料を御覧ください。あいうえお順で御紹介いたします。

株式会社アステックの岩重委員でございます。建築設計の御専門でございます。

○岩重委員

岩重です。よろしく願いします。

○山本都市デザイン係課長補佐

広島市立大学芸術学部現代表現領域の鰐澤委員でございます。現代美術の御専門でございます。

○鰐澤委員

鰐澤です。よろしく願いします。

○山本都市デザイン係課長補佐

広島大学大学院工学研究院の岡河委員でございます。建築意匠・設計の御専門です。

○岡河委員

岡河でございます。よろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

色彩生活コーポレーション株式会社の柏尾委員でございます。色彩の御専門です。

○柏尾委員

柏尾でございます。よろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

市民委員の西村委員でございます。

○西村委員

西村不可止でございます。

○山本都市デザイン係課長補佐

広島大学大学院工学研究院の藤井委員でございます。橋梁の御専門です。

○藤井委員

藤井でございます。よろしく願いします。

○山本都市デザイン係課長補佐

広島国際学院大学情報文化学部情報デザイン学科の伏見委員でございます。

○伏見委員

よろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

情報デザイン御専門をしていただいております。

それから、本日、御欠席でございますが、お手元の委員名簿には記載しておりますけれども、広島工業大学工学部建築工学科の清田委員がいらっしゃいます。都市環境の御専門でございます。

続きまして、本日の案件を御説明いただくJR西日本と事業者の方々及び広島市の関係課職員の紹介でございますが、お配りしております出席者名簿に代えさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、案件の検討に入る前に、委員改選後、初めての会議でございますので、議事の1番目といたしまして、座長及び副座長の選任を行いたいと思っております。

お手元の配付資料の開催要綱第4条第4項及び第5項を御覧ください。そちらに、「会議に座長及び副座長各1人を置く」、「座長及び副座長は、出席者が互選する」ということになっております。

まず、座長でございますが、どなたか立候補、または御推薦はございませんでしょうか。

○岩重委員

引き続き、岡河先生に座長をお願いしてはいかがかと思うのですが。

○山本都市デザイン係課長補佐

皆様、いかがでしょうか。

〈各委員異議なし〉

○山本都市デザイン係課長補佐

ありがとうございます。

それでは、岡河委員、まことに恐縮ですけれども、引き続き座長としてよろしく願いいたします。

では、岡河座長、座長席へ移動をお願いいたします。

続きまして、副座長でございますが、どなたか立候補、または御推薦はございませんでしょうか。

では、立候補、御推薦がないようですので、岡河座長に御指名いただいてもよろしいでしょうか。

○岡河座長

屋外広告物審議会車体AD専門部会部会長、並びに景観審議会の委員もされております伏見委員に、副座長をお願いしたいと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

〈各委員異議なし〉

○岡河座長

よろしく願いいたします。

○伏見副座長

よろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

それでは、伏見委員、まことに恐縮ですけれども、副座長としてよろしく願いいたします。

それでは、岡河座長、一言御挨拶をお願いいたします。

○岡河座長

座長というか、御意見の交通整理係というふうにして、より良いこれからの広島の都市景観づくりや都市環境づくり、さらには、この度には広島表玄関、駅前の周辺の、そういう広島のこれからの新しいイメージといいますか、そういうことに対して、できるだけ私どもが有意義なアドバイスをさせていただいて、様々な方々がそれにうまく対応、協力していただくことで、一緒になって、広島のこれからの、ある意味では都市のイメージをつくっていきたいと思いますので、皆さんよろしく願いいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

ありがとうございました。

それでは、案件の検討に入っていきたいと思います。

会議次第の議事2と議事3、広島駅自由通路と広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキは、このアドバイザー会議におきまして、過去2回のデザイン検討をしていただいています。今回は第3回目の会議といたしまして、対応状況等について御報告をいたします。

ここからの議事進行は岡河座長をお願いいたします。岡河座長、よろしく願いいたします。

○岡河座長

それでは、本日の議事の2番目といたしまして、広島駅自由通路について説明をお願いいたします。

御担当、よろしくお願ひいたします。

○油野街路課課長

広島市街路課長の油野でございます。よろしくお願ひいたします。

議事の2でございます。広島駅自由通路につきましてですが、これまで検討会での御意見を多々いただいております。それを可能な限り踏まえて修正したものを御提示させていただいております。後に議事3にもございますが、それも含めまして、担当のほうから、お手元に配付しております資料をもとに進めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○中田街路課課長補佐

道路交通局道路部街路課の課長補佐をしております中田でございます。座って説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思ひます。

議事資料2、議事資料3ということで、A3版の、事前に郵送で送らせていただいていると思ひますが、ございますか。

それと、本日お配りしている資料の中に差し替えがございまして、1枚、資料を置いてあります。ペDESTリアンデッキ整備事業と右上に書いてありますけれども、4ページ目の資料でございます。こういった図になります。お手元にございますでしょうか。

資料があるということで、では、まず議事資料2のほうから説明をさせていただきます。

議事資料2の表紙をお開きください。よろしいでしょうか。表紙が自由通路整備事業と書いてある資料でございます。1ページ目、表紙を開いていただいて、事業概要として、まずは経緯を説明させていただきます。

自由通路の設計については、平成23年7月に協定を締結しまして、設計作業を進めてまいりました。平成24年3月に、第1回目のデザインアドバイザー会議を開催し、事業概要、施設概要、設備、コンセプト、デザインについて御説明させていただき、御審議いただきました。

また、その後、同年5月に、自由通路本体の整備に関連して、新しい跨線橋の工事に着手しております。広島駅自由通路は、現在、跨線橋を利用している場所に自由通路を設け

るため、新たな跨線橋をつくった上で今の跨線橋を撤去し、自由通路の本体の整備に入る手順となっております。

平成25年3月には、第2回の会議を開催し、第1回目の会議で御意見がありました広島らしさ、広島ならではの表現の対応について御審議いただきました。

こうした経過を踏まえまして、次ですが、事業概要ということで、自由通路の事業期間は平成23年度から平成30年度を予定しております。幅員は15メートル、総延長180メートルとなります。広島駅の南北をつなげるということで、延長、かなり長いのですが、180メートルとなっております。

次に、今後のスケジュールですが、先ほども御説明したとおり、新跨線橋の供用開始予定、平成26年秋を予定しておりますけれども、自由通路は今の現跨線橋の場所に設置しますので、まず現跨線橋を撤去後、広島駅の自由通路の工事に着手する予定としております。これが本年度の秋以降ということになっております。

その後、工事に入りまして、平成29年度に自由通路の供用を予定しております。

その後、平成30年度には仮設構造物の撤去を引き続き行い、事業の全てを完了させていく予定となっております。

続きまして、第2回の会議で、委員の皆様からいただきました御意見への対応について御説明させていただきます。資料の1ページ目、次のページが前回提示したパース、もう1枚めくりまして、2ページ目が今回提示するパースとなります。

資料の1ページ目を御覧ください。左上に、今回、主な御意見、いただいたものを記載しております。主な御意見としましては、部分的にモザイクをするのではなく、少し広い範囲にしたほうがよい、というような御意見であるとか、コイの部分が浮いて見えるため、全体の中でどう溶け込ませていくかが課題である、というような御意見であるとか、川がライン、コイが点で表現されているので、点を川にどう絡ませていくのか、平面計画が重要である、といった御意見もいただきました。また、モザイクはよいが、黒が強く、目立ち過ぎるのではないかと。また、川の抽象表現に対し、コイは中途半端に具象的であり、抽象表現にしてはどうか、といった御意見をいただいております。

こういった今のコイのことを中心として御意見をいただいております。モザイクタイルというのは、人が手で積み重ねていく過程から、被爆から復興した広島を連想させる素材であるため、引き続き採用するということにしております。また、範囲としては、全体の中に溶け込むよう、池に見立てた広い範囲をモザイクタイルといたしました。また、実際

の池に見立てることや、コイの習性を反映させ、コイが岩陰からのぞいたり、群れをなして泳いでいる様を表現しました。コイ自体の表現については、黒い縁取りをやめて、シンプルかつ抽象化し、全体的な一体感を高めました。

こういったことに留意して、次のページの今回提案するパースと書いておりますけれども、2ページ目につきましたような範囲をモザイクタイルとしております。

それをさらに拡大したものが、3ページ目に添付させていただいております。

前回の会議で、広島市立大学の及川教授の御意見もぜひ聞いてイメージするようという御意見もございましたので、及川教授に何度かお会いしまして、このイメージをつくりました。左側ですが、これがコイのイメージの全体の絵になっております。右側がコイの拡大になりますけれども、部分的ではございますが、コイのイメージを表現しております。こういったことで、先生の御意見も踏まえながら、前回の意見を踏まえてデザインをやりました。

以上、説明を終わらせていただきます。

○岡河座長

それでは、ただいまの説明に対しまして、各委員の先生方から、御意見、お質問等がございましたらお願いいたします。

伏見先生、どうですか。

○伏見委員

これは質問ですけれども、及川先生が監修なさって、ここに提出しているということでしょうか。

○中田街路課課長補佐

はい。

○伏見委員

そうですか。もうこれ以上意見は言えませんね。

○中田街路課課長補佐

前回の会議で、及川先生にぜひということもございましたので、その御意見を踏まえて、先生と事前にお話をさせていただいた経緯がございます。

○伏見委員

ということであれば、言いにくいです。

○岡河座長

モザイクの材料はどういうものですか。タイルじゃなかったですよね。石をお使いになるということでしたか。

○西日本旅客鉄道株式会社

前回、御提示させていただいたのは、天然の石を使いまして、それをモザイク状にカットして、張っております。磨き具合も若干変えております。

○岡河座長

範囲が固まった。要するに、インフォメーションボードの周りが池みたいな場所となるということですね。

○西日本旅客鉄道株式会社

はい。

○岡河座長

モザイクについては、何となくイタリアのポンペイのイメージより、もっと、多分もう少し近代的になるのではないかと思います。モダンな感じになるのではないですか。そういうところが駅に1つあるというのは、非常に印象的な駅になるのではないかとということで、前々回からですか、引き続き、前回は、鯉の具体的な、具象的なものがなかなか生々しいということで、もう少し抽象的に全体をとということで、及川先生に監修していただいたということだそうです。

○伏見委員

前のと比較して、各段に良くなっていると思います。

○岡河座長

そうですね、だんだん良く、大分良くなっていますよね。

○伏見委員

ただ、少し思ったのが、タイル、例えば白い泡の部分とかありますよね。ここなんかを、例えば、このタイルのピッチを変えて、4分の1のこのタイルを使うことによって、泡の大きい小さいを出すとか、そういう工夫がもう少しできるかなとは思いましたけれども、施工の手間のこととか、経費のこととかもございますので、欲を言えばということで、ぜひ検討いただければと思っています。

○岡河座長

引き続き、及川先生が監修していただけるんですよ。

○中田街路課課長補佐

はい。

○岡河座長

そういう意見もあったということで、最終的には、もう及川先生が、恐らく頭の中には多分絵がおありになって、その調整という部分をお願いします。

○伏見委員

随分よくなったので、不満はございません。

○中田街路課課長補佐

ありがとうございます。

○岡河座長

はい。

○岩重委員

私もすごくよくなったと思うんですけども、これをここの場に立った人が見たときに、全体像がこういうふうな感じでは見えないので、何かということがわかるために、このインフォメーションボードの下のほうに、これは広島のコイをイメージした画ですというような表示を入れてみたらどうかと思います。

○岡河座長

そうですね。それと、さっきの復興からのということでモザイクを使ったという説明もあるといいかもしれませんね。そのインフォメーションボードのメッセージを1つ加えるということで、予算内でもしできればです。

○中田街路課課長補佐

はい。

○岡河座長

芸術家として、鰻澤先生、どうですか。

○鰻澤委員

アウトラインどうですか、池のアウトラインは。同業がやっていることなので、何というのか。このPタイルみたいなグリッドがありますよね。

○岡河座長

そうですね。一応、このグリッドが基本にはなっているんだと思うんです、タイルの。

○鰐澤委員

これは崩せないんですよね。

○岡河座長

これ、何センチ角でしたっけ。

○中田街路課課長補佐

30センチメートル角あります。

○岡河座長

30センチメートル角。

○鰐澤委員

分かりました。

何というのか、上下左右、対称ですか、シンメトリーですか。

○岡河座長

基本的にそうですね、シンメトリーですね。

○鰐澤委員

何か少し動きを出すために、アシメトリーにしてもいいかなぐらいには思いましたけど。

○岡河座長

それもまた、及川先生に少し、その御意見がありましたということで、検討していただければと。

○鰐澤委員

そんなところです。

○岡河座長

ほかに、市民の委員の方、いかがですか。

○西村委員

先ほどからお話を聞いているんですが、これは、最終結論じゃないわけなんですね。

○岡河座長

基本的にはこれでいくということで、アドバイザー会議の御意見を一応お聞きいただきながらということになるかと思うんですが。

○西村委員

私的には、確かに、前の一番最初の絵よりは、はるかにイメージがよくできたと思います。

○岡河座長

なるほど。

○西村委員

強いて言えば、コイのイメージ、全体が、インフォメーションボードの上にニシキゴイが3匹おります。3匹の一番左側を、私だったら、2目盛りもう少し左に寄せます。

○岡河座長

という御意見もあるということで、先生、いいですか。

○西村委員

というのは、このインフォメーションボードの輪切りしたこの真ん中の2匹にコイが寄り過ぎている。もう2目盛りほど左側へ、私だったら寄せます。

○岡河座長

じゃあまた、これも及川先生にお伝えください、委員の方からそういうアドバイスもありましたということで。

○中田街路課課長補佐

はい。

○岡河座長

色彩のほうでいかがですか。

○柏尾委員

かなり協議されてきていると思いますので、前回のも拝見させていただいて、今日はとてもわかりやすくなっていると思います。これぐらいのピッチでのドット表現というのは面白いと思います。

色のことについて言いますけども、まず、ここで質感なんですけど、タイルの質感はどういう質感なんですか。

○西日本旅客鉄道株式会社

石で、基本的には磨きがない状態ですですので、少しざらついたものを使っている。

○柏尾委員

マットな。

○西日本旅客鉄道株式会社

マットな感じで使っているのが主なところですが。ただ、このコイ、目立たせたいコイの部分に関しては磨きを入れまして、つるつとした表面になってます。色がかなりはっきり

出てくるような形にはしております。

○柏尾委員

だから、コイのほうが質感が違うと。

○西日本旅客鉄道株式会社

そうですね。つるつる、磨いているほうに関しては、太陽光なんか反射すると、少し光って見えるような形になりますので、遠目で見たときにも分かりやすいかなと思っております。

○柏尾委員

さっきも話題に上がっていた白い部分、私、これが泡というふうによく分からなかったんです、キラキラというのが。この泡のような白いタイル、これが一番明るさが高いです。明度が高いです。だから、ここをもうちょっと抑えていったほうがいいんじゃないかと思います。色としては、ベースのライフラインに対して一番差のある色を使われていますから、コイよりもこの小さいドットのほうが目立っている感じになっているんじゃないかと思うんです。もうちょっとコントラスト、ベースに対して抑えていかれると、もうちょっとコイのほうが目立ってくるんじゃないかなと思います。

それが、ポイントはタイルですから、そのタイルの商品としてそういった色があるかどうかということが、もちろん前提になってくると思います。

○西日本旅客鉄道株式会社

御意見ありがとうございます。

これ、今回、パターンとして提示をさせていただいているんですが、実際は天然石でございます。この白というのも真っ白ではございませんで、少しグレーがかった白になっておりますので、委員の方がおっしゃったような、少しコントラスト、これよりは小さくなっているものと。今、実際にモックアップという形でつくってはいるんですが、そういった形に近づいているかなというのは。御意見いただいた分、参考にさせていただいて、もう少しできればと思います。

○藤井委員

自然石ですよ。

○岡河座長

自然石です。タイルでなくて石なんです。

○藤井委員

だから、同じ色というのはなかなかない。

○岡河座長

出ないですよ。実際に、イタリアの大理石はみんな石ですよ、タイルじゃなくて、焼いたものじゃないんですよ。だから、最終的には、及川先生に原寸で、これ、チェックされるって言われていましたか。モックアップの。

○中田街路課課長補佐

まず、これ、今、原寸したものを先生にお示しをしました。紙で。

○岡河座長

原寸というのは、ほぼ、この部屋の一回り小さいぐらいですよ。

○中田街路課課長補佐

ええ、これぐらいの大きさです、長さは。それと、この今のコイのイメージ、右側の拡大のほうですが、これの原寸の石を張ったものをお示しして。

○岡河座長

これ、モックアップですね。

○中田街路課課長補佐

やっております。

○岡河座長

そうですか。

○中田街路課課長補佐

はい、実物を見ていただいております。

○岡河座長

じゃあ後は、今日の何人かの先生のアドバイスを及川先生にお伝えして、最終的には、及川先生のアドバイスで完成するという方向で。

○西村委員

もう一ついいですか。

○岡河座長

はい、よろしいです。

○西村委員

ここの、今、コイのところを、お話では、いわゆる表面を削って、いわゆる光沢状態に

するという話でございました。いいですよ、そういうことですよ。

○岡河座長

はい。

○西村委員

滑りというものは、周りのマット状態にもものに対してどうなんでしょうか。今度は、デザインではなくて安全性の問題からして。

○西日本旅客鉄道株式会社

この部分に関しては、実際に張る前に試験張りみたいなものをして、滑りの確認はすることは必要だとは思っております。ただ、磨きの部分に関しても、完全な磨きではなく水磨き程度でございまして、実際に歩行するには支障がない程度の滑り、抵抗値に抑えようと考えております。

○藤井委員

すみません、よろしいですか。

○岡河座長

はい。

○藤井委員

ここにあるパースの2ですけども、この6本の太田川の河川の、川がありますよね。

○岡河座長

はい。

○藤井委員

これと、いわゆるコイの外回りの色とのバランスはどういうものでしょう。

○岡河座長

これと一緒に見ていただいているんですよ。

○中田街路課課長補佐街路課

具体的にはまだお見せしていません。タイルの色は。

○岡河座長

タイルの川のイメージのストライプがあります。その色と、このコイの地の。池の色。

○藤井委員

これ、池。池の色と川の色というのは、全く関係ない色という話だと、あんまり分からないですよ。6本あるというのが何かというのも分からないし。

○西日本旅客鉄道株式会社

色み的には、タイルと石とで質感は違うんですけども、色みはある程度近いものを選定してしまして、それを写真にはおさめて、及川先生にはお示しさせていただいてはおります。

○藤井委員

3ページを見ると全然明度が違うじゃないですか。それで1つ気になったんです。

○中田街路課課長補佐

そうですね。これよりは、現実には、タイルの色はかなり近づけるよう配慮していきます。パース、この3ページ目が、川の色がちょっと薄いのでそう思われたかと思いますが、近づけていきたいと思っております。

○岡河座長

ほかに御意見ございましたら。

○西村委員

もう1ついいですか。

○岡河座長

はい。

○西村委員

点字ブロックは片側しかついてないですが、通常、片側だけなんですか、歩行点字ブロック。

○中田街路課課長補佐

基本的には、この動線に対して1本という形で整備をする予定です。

○西村委員

この真ん中の、いわゆる柱というか、ポールに対して、私、左右あるのかなと思ったんですが、じゃなくて、片一方側だけでいいんですか。

○岡河座長

これは一般的な駅の自由通路で1本ということで理解してよろしいでしょうか。

○西日本旅客鉄道株式会社

はい。

○岡河座長

じゃあこれは、及川先生、やっぱり芸術家であられるので、ぜひ現物で、タイルもそれ

からモザイクの石も、現物を見ていただきながら、最終的には御判断いただくという、いわゆる芸術をつくるのと同じようなプロセスを踏んでいただいて、進めていただければ、恐らく間違いないような気がいたしますので。

ということで、各委員の先生、よろしいですか、これにつきましては。

じゃあ、期待をしてといたしますか、上の天井のリズムの陰影と、このモザイクタイルの、それが本当に最終的にどうなるかは、できたときにしかわからないと思うんですが、期待をしてという、期待が持てる方向性があるのではないかと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

それでは、次の議題ですけれども、議事の3番目です。広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキについて説明をお願いいたします。

○中田街路課課長補佐

議事資料3をお開きいただければと思います。

先ほども説明に先立ちましてお話ししましたが、お手元の資料で差し替えをお願いしたいと思います。4ページ目でございます。資料の差し替えをよろしくをお願いいたします。

左側の下で、意見への対応というところになっております。この中の言葉の表現を変えております。もともとは「JR駅構内との一体感に配慮したポイントとする」としておりましたけれども、それを「JR駅構内との一体感に配慮する」という言葉に変えております。

以上です。

添付しております図面については差し替えございません。内容は一緒です。

それでは、表紙をめくっていただきまして、事業概要を説明させていただきます。

事業の経緯でございます。このペDESTリアンデッキの実施設計については、平成24年11月に業務委託契約を締結し、設計作業を進めてまいりました。平成25年3月に、第1回目のデザインアドバイザー会議を開催し、事業概要、施設概要、整備コンセプト、デザインについて御説明させていただき、御審議いただきました。また、平成25年7月に、第2回目の会議を開催し、第1回目の会議の御意見に対する対応として、平面形状、上屋構造、やわらかさについて対応状況を説明させていただき、御審議いただきました。また、平成26年3月から工事には着手してございまして、現在は、ペDESTリアンデッキ本体工事を行うため準備作業を進めております。

続いて、事業概要について御説明いたします。

当ペDESTリアンデッキの事業期間は、平成23年度から27年度を予定しております。総延長は約450メートル、幅員は、広場の西側に設置する西側ペデ及び駅舎に向かう形で東西方向に設置する東西ペデ、これが4メートルの幅員となっております。これが基本的な幅員となっております。広場の中央、南北に貫く形で設置する中央のペデ、真ん中のペDESTリアンデッキが6メートルの幅員となっております。また、このうち、東西ペデにつきましては4メートルを基本とし、部分的に最大9メートルまで幅員を広げる計画としております。東西ペデと中央ペデのちょうど接続部分、円形になっているところが、直径30メートルの半円状の広場を設け、人のたまり空間を確保するとともに、にぎわいを演出する計画としております。

次に、今後のスケジュールです。先ほど、経緯のところで御説明させていただきましたが、平成26年3月に工事に着手し、平成27年度末の完成を予定しております。

続きまして、第2回目の会議で委員の皆様方からいただきました御意見への対応について御説明させていただきます。

次のページをお開きください。先ほど概要を説明しましたが、全体イメージ図です。向かって左側がシェラトンさんです。右側がグランヴィアになります。先ほど言いました中央ペデという6メートルの幅員が真ん中です。シェラトンさんとグランヴィアさんの前は、幅員4メートルのペデを設けております。中央ペデと東西ペデがクロスします中央部分、半円形になっているところが直径30メートルの広場のたまりとなっております。

次に、前回の会議で委員の皆様方からいただきました御意見で、照明計画、舗装計画、高欄デザイン、サイン計画について御意見をいただいておりますが、これらの対応について御説明させていただきます。

次のページをお開きください。

右上に照明に関する御意見、主な御意見として、その対応を掲載しております。主な意見の内容としては、中央ペデや、東西ペデに、特に膜屋根の部分について、照明はどのようなのかとの御意見をいただいております。

これに対する対応としては、照明はアップライトによる間接照明を基本とし、必要な照度を確保するため、ダウンライトによる直接照明も組み合わせることとしております。こうすることで、明るく開放的な空間を演出することができるのではないかと考えております。対応イメージなんですけど、これ、岡山駅の実例写真になりますけども、掲載しております。こういったイメージになると考えています。

また、次に資料の左下になりますが、舗装に関していただいた主な意見とその対応を記載しております。

意見としましては、色はどのようになるのか、自由通路とのバランスを考えてはどうかとの御意見をいただいております。これにつきましては、舗装材は自由通路との連続性を考慮し、一体感のあるデザインとなるよう、同等の仕様とすることとしております。

また、自由通路では、先ほどの説明の中にありましたけども、広島らしさを表現するために、広島の6本の川のモチーフを素材として取り入れています。こういったものも、今回のペデの通路にも生かしていきたいと考えています。そういったことで、より一層、連続性や一体感が生まれるのではないかと考えております。

なお、資料に掲載している断面イメージは、前回に御提示させていただいたものですが、こういった工夫を生かしながら、今後、整備を進めていきたいと考えております。

資料の3ページ、次のページをお開きください。高欄デザインに関する御意見です。これは、高欄のパネル部分について、やわらかさを表現するため、前回の会議で、波模様とすることを御提案させていただきました。しかし、波模様のピッチが狭い上に、グラフィックなパターンが出過ぎているという御意見であるとか、波模様にするのであれば、多少揺らぎがあるほうがいいのではとの御指摘をいただいております。

こうした御意見を踏まえて、揺らぎ表現をできるような検討をしておりましたが、非常にパネル1枚ごとに異なったパターンの加工が必要となり、非常にコストが高くなるということもありまして、対応が困難であることがわかりました。このため、新たな対応としまして、波模様ではなくて、グラデーションを採用することとしております。

イメージ写真で右側の下につけておりますが、下側が非常に濃くなっておりますが、上に行けば行くほど薄くなるというような、そういった形のものにさせていただいております。こうすることで、1階レベルからの目隠しの機能を保ちつつ、やわらかさを表現できるのではないかと考えています。

資料の4ページ目、次のページをお開きください。サイン計画についてです。前回の会議では、主に表示する言語がどのようになっているのかといったことであるとか、サイン計画やアドバタイジング、広告のことですが、とってつけたようなことにならないのかと、そういったことに配慮すべきではないかといった御意見をいただいております。

まず、言語ですが、当該箇所は、日本各地はもとより、世界各国からたくさんの観光客が広島を訪れる際に利用する陸の玄関口です。こういったことで、より多くの方々に分か

りやすいサインとすることで、4カ国語を基本としております。また、詳細につきましては、今後、本市の観光部局とも協議を行いながら、最終的には決定していきたいと考えています。最低4カ国語というふうに思っております。

次に、色彩やフォントですが、これは自由通路や広場との連続性を考慮するといったこと、JR駅構内との一体感、こういったことにも配慮するように考えております。

また、バリアフリーの観点から、お年寄りなどにも見えやすい表示とするため、下地と文字とにしっかりとした明度差を設けるようなデザインとしております。

最後にアドバタイジングのことですが、当該ペDESTリアンデッキは、広島市屋外広告物条例により、原則として屋外広告物を表示設置できない物件に該当することから、広告物の掲示を行わない方向で関係部局と協力していきたいと考えております。

以上で、広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ整備事業の説明を終わります。

○岡河座長

どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に対しまして、各委員の先生方から、御意見、御質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

これも、伏見委員、どうですか。

○伏見委員

まず、波をやめて、このグラデーションを行うということなんですけども、このグラデーションの幅が、イメージだと半分あたりまでに下からグラデーションがかかっていると思うんですけども、この幅がもう少し上まであってもいいんじゃないかなというふうには、目隠しということを考えれば、もう少し上まであってもと思いました。

文字は下地と文字に明度差をつけ、この文字というのは、ちなみにフォントスタイルは何を御使用になれるんでしょうか。

○中田街路課課長補佐

これは、JR西日本さんが使われているフォントと同じものを使おうと思っております。

○伏見委員

モリサワですか。

○中田街路課課長補佐

済みません、即答できなくて恐縮です。

○伏見委員

モリサワさんは日本で一番大きな読みやすいきちんとした文字を使われますけれども。

○中田街路課課長補佐

モリサワの書体です、UD書体というか。

○伏見委員

UD、ユニバーサルデザインですね。

○中田街路課課長補佐

そうですね。

○伏見委員

ユニバーサルデザインの書体を使っているということですね。

アルファベットを日本で解された書体ではなくて、ヨーロッパでつくられた、タイムズとかそちらの、向こうでつくられた書体を使ったほうが、海外の方は多分読みやすいと。日本でつくられた書体は、私たちはあまり分からなくても、大変バランスが悪いとか、読みにくいということをよく海外の方は言われますので、アルファベットの部分は向こうで開発された文字を使ってはどうかと思いましたので。

○中田街路課課長補佐

ありがとうございます。

○伏見委員

以上です。

○岡河座長

はい。

藤井先生、いかがですか。

○藤井委員

一番気になるのが、4ページ目に中央ペDESTリアンデッキありますよね。

○岡河座長

はい。

○藤井委員

これ、構造的にどういうふうになっているのかなと思って。2ページ目のパースを見ると、天井板は全部下に張っていますよね。

この上に屋根が来て、雨どいの真ん中に集中するということになると思いますけども、

これ、どういう形の構造になっているんだろうというのが。

○街路課安野技師

天井自体はアルミハニカムを想定してまして。

○藤井委員

ハニカムですか。

○街路課安野技師

ハニカムです。

下にはり部材が出ているような状態になりますので、そのはり部材に直につけるような形になっています。

○藤井委員

気になるのは、真ん中の立ち上がりがありますよね。これ円ですよね。

○街路課安野技師

支柱ですか。

○藤井委員

支柱は。

○街路課安野技師

支柱は円です。

○藤井委員

ポストね。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

その上に何かちょっと出ますよね。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

これが強度部材なんですね。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

これは円柱。

上に出る柱は円柱ですか。

○街路課安野技師

円柱です。

○藤井委員

その円柱の上に、こういう。

○街路課安野技師

テーパー状の。

○藤井委員

板がありますね。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

これ、4方向に1枚、それぞれ板があるというイメージですか。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

何か気になるんです。バランスでいえば、連続させて全部化粧してもいいんじゃないかという気がするんです。

最後の3ページ目の左上、上の図。

○岡河座長

3ページ目の上。

○藤井委員

はい。

その奥に中央ペデストリアンデッキのポストが見えるんですけど。

○岡河座長

奥ですね。

○藤井委員

こんな形になりますよね。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

ここにかなり力を入れてやるんだったら、このとこ何とかありません。例えば、連続性を持たせていくか、構造物はハニカムでいくというのであるならば、場合によったら、はりと格子でグリッドでやればいいわけですよ。いわゆる屋根の上側は、下が皆さんの見る、人が見るところですね。

○街路課安野技師

そうですね。

○藤井委員

だから、上は少々高くても、そんなに上は張らないといけないのですかねというのも少しあるんです。屋根材というか、かわら材をこんな張るということが必要なんだろうかというが少しあるんです。

最後の4ページを見ますと、上と下に屋根がある、屋根材の下に膜があってという形なんですけど、皆さん、見るのは下だけじゃないの。そうすると、上はもう少し簡略して、強度的なものや維持管理性を上げて、もうちょっとつきやすいような構造にしといたらいかがでしょうかというのが、構造的な話。

今度は、その下の1階部分ですけど、今のターゲットはペDESTリアンデッキ上から人間がどうなるかというのが、かなり強いんですけども、この下もバスセンターとして使いますよね。

○街路課安野技師

使います。

○藤井委員

ですから、その下はどうなるんでしょうねというのが気になります。

それを見ると、2ページ。

下は両サイドで柱がありますよね。上にデッキがあって、真ん中からポストが建ってるというような感じですよ。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

今度は、その辺は、例えばグランヴィアのほうから見たときに、柱のポジションがまあまあ違和感ないかなという気がするんだけど。何か統一しているともっといいなと思うんだけど、耐震性を考えて日本はしなきゃいけないから、ああいうふうにしないとイケないのかなという気はしますけど。

○街路課安野技師

そうですね。

○藤井委員

だけど、中ばりの真ん中からポストを建てていますから、どっちかという両サイドに上げてもいいのかなという気はするんです。

○街路課安野技師

中央ペデに関しては、下部構造は橋脚1本でして、真ん中でそのまま。

○藤井委員

下も真ん中1本。

○街路課安野技師

はい、下も真ん中1本です。

○藤井委員

じゃあ、これ。

○岡河座長

1本柱の通しですよ。

○街路課安野技師

そうです。1本柱の通しです。

○藤井委員

1本柱の通しなんだけど、上のポストとは違うんですね。

○街路課安野技師

そうです、違います。

ピッチが違います。

○藤井委員

その縦ばり1本通して立ち上げる。

○街路課安野技師

そうですね。

○藤井委員

ラーメンだよな。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

わかりました。

○岡河座長

構造ですが、中央ペデの屋根に当たるところがハニカムで、天井に当たるところは、これは実は金属のパネルですよな。

○街路課安野技師

そうです、パネルです。

○岡河座長

ということですよな。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

ですから、上はハニカムを、構造躯体の、要するにキャンティレバーのほりに金属で接合すると。

○街路課安野技師

そうですね。

○岡河座長

それ、下は仕上げで、要するに見えがかりとしてパネルの天井がずっと取りついていくということですか。

○中田街路課課長補佐

そうですね。照明もありますし、配管も。

○岡河座長

ということ。

○藤井委員

ハニカムのほうがやはり合理的なんですか。

○岡河座長

これは軽いということですよ、多分。ハニカム。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

構造体としては、その4ページ目の一番上にある、あのハッチングを入れている。

○岡河座長

左、そうです、ハッチが入っているところが屋根です。ハニカムの屋根。

○街路課安野技師

そこがハニカムです。

○藤井委員

ハニカム本体は、どう言えばいいんだろう。

○岡河座長

上に乗っているだけです。

○藤井委員

ハッチングの下の。

○岡河座長

ハッチングの、要するに構造躯体の上のハッチングのを含めてという。

○藤井委員

それから天井を吊るしている。

○街路課安野技師

そうです。

○岡河座長

そういうことです。天井を吊るしているということです。

○藤井委員

そうすると、このひれは、ハニカムとつながっていて。

○街路課安野技師

はい、そうです。

○藤井委員

何か一体的にならないでしょうかねというのがちょっとあるんですけど、このあたり。

連続性というのは下から見たら、きっと柱から天井裏へ連続していくんですよ。皆さんだって、きっと。構造体としては上のハニカムまで行っているんだけど、というようなのが、何かちょっと工夫ができないかなというのは、今さっき思ったんですけど。

○岡河座長

これ、ハニカム、構造で使ってないですよ。屋根材として、ここに取りついているだけですよ。これ、構造躯体として横軸方向の面剛性をとっているんですか。

○街路課安野技師

いや、屋根材として。

○岡河座長

屋根材として取りついているだけですよね、これは。

○街路課安野技師

はい。

それとは別に、はりは当然ございますから。

○岡河座長

これは、はりとは別に。

○街路課安野技師

はい、中に。

○岡河座長

別に中に入っていると、この天井の下から張る中にはりはあるという。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

ハニカムは強度部材じゃなくて。

○街路課安野技師

ではなくて。

○藤井委員

横ばりは入っているわけですか。

○街路課安野技師

横ばりは入っています。中でそれを。

○岡河座長

その横材を見せないために天井を張っているという。

○街路課安野技師

そうです。

○藤井委員

そうすると、2 ページ目の東西ペデあたりですと。

○岡河座長

東西ペデ。

○藤井委員

はい。

これは非常にシンプルな構造になっています。東西ペデ。

○岡河座長

これは上からつっているような形でしょう。

○藤井委員

いや、下から膜構造みたいな。

○岡河座長

ええ、膜構造ですから、もう全部見えるように。

○藤井委員

膜ですね。

○岡河座長

はい。

○藤井委員

この辺、ちょっとアンバランスかなって気がするんだけど。

視点の場ということを考えると、メインが通行人と1階から見たものじゃないのかなという気はするんです。大体出てくるのは、かなり平面的に真上から見たところですね。かなりグランヴィアの窓から見たって、そういうイメージの1ページですから、こういう感じで見えるというポジションはそうないんじゃないかと。お金が潤沢にあればいいんですけども、少ないという話ですから、やっぱりメインをどこに置くかだと、正面ですよ。

○岡河座長

具体的には、藤井先生のアドバイスというところから。

○藤井委員

横ばりを通していますから、横ばりを下の天井材でつないでいくのがいいんですが、横ばりで持たすという話ですと、下のフィレットをもう少し工夫して、横ばりにスムーズにつけるとか、一体化させて、つなぎ目もこの下に持ってきて、ここのつなぎ目からこういう感じで横ばりを連続させるとか、そんなのをやれば割と楽なんじゃないのかなと。

これも縦ばりがあるでしょう。

○中田街路課課長補佐

そうですね。

○藤井委員

そうすると、それをうまく何かできないですかという。直線でぼんと上げるんじゃなくて、曲面的に切るだけですから。

○中田街路課課長補佐

アールのイメージでしょうか。

○藤井委員

アールをつけて、横ばりと一体化する、縦ばりで一体化する。それで、上でつなぐのは結構見えませんよね、天井側で覆いますから。そういうのでしたら、下の連続性みたいなものが出ないでしょうか。

○岡河座長

構造計算のことがあると、これ、アールをつけて、要するにエルボーのところです。

○藤井委員

そうですね。

○岡河座長

可能なら、それで割とスムーズに行くかもしれないですね。構造計算だと、その応力の。

○藤井委員

何も問題ないですね。恐らく。

応力の流れがスムーズになっただけですから、むしろいいですけど。

○岡河座長

アールをつけたほうが。

もし、構造的に検討して、それでいけば非常にスムーズな、柱からその天井へ向かって連続していくという形をつくれれば、割ともっとエレガントになるかもしれない。

○中田街路課課長補佐

ありがとうございます。

今の設計の段階でございますけども、検討させていただきます。

○岡河座長

そうですね、検討できることは検討していただいて、少しでも。

○藤井委員

縦ばりも横ばりも、天井材を張ることによって見えないですね。上のハニカムを、なぜ要るんだろうというの。もちろん雨よけ。

○岡河座長

うん、雨よけですよ。まさに屋根の雨よけですね、この上のハニカムは。

○藤井委員

ハニカムだけじゃなくて、上に何かプレートを張ったハニカムなんですよ。ハニカムって。

○岡河座長

ハニカムというのは、要するに中がハチの巣状に、上と下で。

○藤井委員

ついてる。

○岡河座長

そう、ついてるんです。

○藤井委員

普通、我々がハニカムといたら、上のプレートがついているやつを。

○中田街路課課長補佐

挟み込んでいます。

○藤井委員

分かりました。

○岡河座長

板が1枚より風圧に対して異常に強いということで、これを選ばれているんじゃないですか。ということですよ、ハニカムの。

○藤井委員

はい、分かりました。

○岡河座長

水は真ん中に集めて、柱のところで真下に落とすんですか。

○街路課安野技師

そうなります。

○藤井委員

そのぐらいしかない。

○岡河座長

柱の中で。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

詰まったとき、どうするか。

○藤井委員

メンテ考えたら、外が一番いいんですよ。ですから、2ページの岡山駅、外、出ていますよね。

○岡河座長

あんまりこれがきれいじゃないんですけど。

○藤井委員

きれいではないんですけど、メンテを考えたら楽は楽。

○岡河座長

楽は楽ですね。

○藤井委員

だから、真ん中に持ってきたとき、詰まったらどうするかなというの、気にはなりますけど。

○岡河座長

上に登れるから、上からできるのか、詰まったときも。

○藤井委員

そうですね。

上れなければどうにもならないと思いますけど。

○岡河座長

これも、でも、一応メンテの件と、一応これはこれでいくとしたら、そういう、例えば詰まったときにはどう処置するのかというのは一応検討していただくよう、提案させていただきます。

市民の御意見はいかがですか。

○西村委員

私は特にこれで問題なかったですし、それから、この波模様のこれ、今のほうが大分よくなったと思います。

○岡河座長

そうですね。

○西村委員

1つ、多分問題はないと思いますが、この全体を描いた1ページのところで、シェラトン側のここが切れているんですが、こちら側のところにエレベーターがついているのだろうかなと思っただけで。

○岡河座長

シェラトン側に切れていて、エレベーターが3基つくんでしたっけ。

○街路課安野技師

そうです。

○岡河座長

3基つくんですね。

○街路課安野技師

そうです。資料左手の切れているシェラトン側のほうには、既に、ここ、道路を横断するペデができていますけれども。

○岡河座長

ここ、一番東側ですね。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

これはもうできている、現時点できているんですね。

○街路課安野技師

はい。

こちら側については、ビルの中にあるエレベーターが、その一体となっていて、そのエレベーターが利用できるようになっています。

○岡河座長

それを使うと。

○中田街路課課長補佐

もう、今、既に整備されております。

○西村委員

そうですか。

○岡河座長

そのエレベーターの件なんですけども、先ほどのガラスの手すりの、これ、グラデーションですか。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

もし、この手法をエレベーターでも使っていただければ、全体として、エレベーターのガラス面なんですけども、検討いただければ、少し統一感のあるガラスの使い方になるかもしれないと思いますので、少し検討していただければと思います。

○藤井委員

ガラスなんですか。

○岡河座長

ガラスなんです。ガラスの、多分、これ張りつけなんですよね。

○街路課安野技師

張りつけです。

○岡河座長

フィルムに恐らくプリントして、中で、それを張りつけた。

ガラスそのものが2枚。

○街路課安野技師

合わせガラスです。

○岡河座長

合わせガラス。だから、破損したときでも、これは、下まで落ちないという。要するに破裂しないということですね。

○街路課安野技師

そうです。

○岡河座長

フィルムにくっついたままで。

○岩重委員

エレベーター棟も、これは。

○岡河座長

これを使ったら、全体としてアワッとなって、ガラスのところが少しきれいかな。

○岩重委員

1階に近いところは、できればちょっと上手に。

○岡河座長

そうそう。ちょっと上手に、上がったときに、グラデーションの中を上がるみたいな感じもいいかなと。ほかのところではあんまり使ってないので、少し広島駅ならではのそういう感じができるかもしれない。

ほかにありますか。

○藤井委員

もう決まっているかもしれないんですけど、3ページ目のペDESTリアンデッキの中央部のところ、東西、南北。

ペDESTリアンデッキの中央ですか。

○岡河座長

3ページですか。

○藤井委員

3 ページ目の左上です。2 階と 1 階の柱の位置が、数も全然違うし。

○岡河座長

そうなんです、ここがね。

○藤井委員

下の受け、もちろんその強度的な話なんですけども、これ何かもう少し通すとか。

○街路課安野技師

今、パースの角度によって見え方が違うんですけども。

基本的な柱、下部工の柱の位置に関しては、J R さんのやられているビルの柱ピッチと基本的には合わすような形にしまして、基本的には統一感を持たすような、同ピッチで考えております。

○藤井委員

そのときに。

○藤井委員

2 階の柱の位置と 1 階の柱の位置はばらばらになっているから、できれば何本か統一してほしい。

○街路課安野技師

駅側の東西ペデというか、駅ビルに沿ってできる柱の位置は、基本的には、先ほど申し上げたように、上も下も。

○藤井委員

1 本もの。

○街路課安野技師

1 本ものではないですが、極力ビルの柱の位置に合わせるようにしていますので、そんなにまるでばらばらというようなイメージではないです。

○藤井委員

こんな感じではないんですね。

○街路課安野技師

はい。

○藤井委員

これ、例えば、中央ペデで、下を見たら、何か柱がすごいねというふうに私はなるんだ

けど。これが通れば。

○街路課安野技師

基本的な位置は合わすようには考えています。

○岡河座長

私もこの構造について、1階は、基本的には、ビルのピッチなんかに合わせてつくと。2階は、要するにテント屋根を支えるだけですよね。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

ですから、これは、そこから出たはりのキャンティレバーの先端に丸いはりが回って、その上に、4本乗るというふうに。

○中田街路課課長補佐

そうです。

○岡河座長

そのように考えていいんですよね。

○中田街路課課長補佐

そうです。

○岡河座長

一番上の半円形がありますよね、これ、30メートルぐらいの。ここが雨どい兼構造体になるんですか、はり兼雨どいみたいな。一番外側の。

○街路課安野技師

はりの外側に雨どいを取りつけます。

○岡河座長

はりの外側に雨どいがつくんですね。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

ここに水を落とすと。

○街路課安野技師

そうです。

○岡河座長

そのときに、実はテント、今、ジグザグになっていますね。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

谷側は、その雨どいの入り口のところで止めざるを得ないと思うんです。山側が少し出る、要するに星形になる。でないと、恐らくジグザグしているのが遠くから見ると分からないと思います。分かりますか、申し上げている意味は。

○街路課安野技師

ええ。

○岡河座長

ディテールの先端なんですけれども、少しそこで工夫があれば、よりこのデザインというのか、水平から見てもそのデザインが見えるというふうに、ディテールで工夫できれば、したほうが良いと思います。

○藤井委員

はちまきよりちょっと出てくるぐらいの。

○岡河座長

ちょっとそこが出ると、折り紙の感じがより出てくるというか。

一定のところ、恐らく調整ができるように思いますので。

○藤井委員

鈍角に三角形をつくるでしょう、それを。

○岡河座長

出たところが、少し外へ出てくるような形にされると、星形というか。

○中田街路課課長補佐

そうです。少し上げるイメージなんです。

○岡河座長

もしくは、上げるか、外へ出る。

○中田街路課課長補佐

出るか。外へ。

○岡河座長

外へ出る、三角のそこだけ、先がね。内側が出ちゃ、雨、外へ出ちゃうんだけど、雨どいの位置と。

○中田街路課課長補佐

雨どいの位置よりも。

○岡河座長

もうちょっと外へ、上へ上がったとこで出るようなディテールにされると、よりきれいな印象になるんじゃないかと。

○中田街路課課長補佐

検討いたします。

○岡河座長

そうですね。

鰐澤先生、何かございますか。これ、初めてですよね。

○鰐澤委員

ええ、初めてです。

○岡河座長

これ、基本的にはテント屋根の部分が駅にずっと平行に沿って、真ん中のところできっきの円形のとこ、そこから2本、先ほどの金属のパネルの屋根のデッキが2本出てくるという形です。

○鰐澤委員

柱は金属ですか。カバーですけど。

カバーはSUSですか。

○岡河座長

丸柱のカバーですか、これですね。

○鰐澤委員

はい。

○街路課安野技師

中央ペデはアルミです。

○鰐澤委員

アルミニウム。

どんな表面になるんだろ。

○街路課安野技師

仕上げですか。

○鰐澤委員

仕上げがね。

○街路課安野技師

素材色のそのままみたいな感じが。

○鰐澤委員

何か温和な、柔和なというか、そういう肌合いが出せませんか。ブラストの何か。

○中田街路課課長補佐

ブラスト処理ですね。

○鰐澤委員

どう言えばいいかな。SUSなんかで。

○岡河座長

つるつるの円柱のままなんです。

○街路課安野技師

円柱のままです。

○鰐澤委員

アルミで。

○街路課安野技師

アルミです。

○鰐澤委員

ぽこっと、何かやられませんか。

SUSなんかでも。

○岡河座長

もしもジグザグとか、多少そのリブがついているとか。

○鰐澤委員

ガラスに打ったりすると、かなりSUSもつるつるじゃなくて、少し乳白色の穏やかな

感じになったりするんです。きっとアルミでもできるんじゃないかなと思う、柔らかいし、もつと。

○岡河座長

手すり、ステンレスでしたよね、これ。

○街路課安野技師

ステンレスです。

○岡河座長

手すり、ステンレスですよ。

○街路課安野技師

はい。

○岡河座長

もうシルバーですよ。

○街路課安野技師

シルバーです。

○岡河座長

じゃあ、それとのバランスということで一緒にこれを考えられるのと、ペラペラだと、恐らくベコベコになっちゃうと思うんです。

○中田街路課課長補佐

なるほどですね。

○岡河座長

ですから、それ、多少のものがぶち当たっても大丈夫なような、ちょっと加工があるものが使えばいいことです。

○藤井委員

ここは、多分。

○岡河座長

ええ、いうことですよ。

何か真ん中にあるし、もう、ちょっと当たっても、多分、やわらかい。

○西村委員

そうしないと、ここはまだ車とか人とかが通るので、太陽とか何とかの反射光がひどくなったら困るから。だから、いわゆる光沢のない。

○岡河座長

マットな、マットなというか。

○西村委員

がさがさのマットな状態で。

○岡河座長

円柱のリブは上手にやったらギリシャの神殿のスペースみたいになるから、それで上が丸くなると、結構きれいな円柱が、可能性はありますよね。ぜひ検討していただいて。

ええ、ぜひ検討。真ん中ですし、頑張って1本柱で本当にやっておられるので、せっかくでしたら、もう一工夫していただければ。

○中田街路課課長補佐

はい。

○岡河座長

色彩のことについて。

○柏尾委員

いろいろ造形面については、検討していただいている。それから、高欄のパターン、グラデーションパターンも、ドットを使ったグラデーションパターンになっていますけれども、現在の感覚とマッチしていると思います。どこまで上げるかという、そこの調整だと思えます。

そして、下の2面なんですけども、2つありまして、1つはサイン計画の色彩。こういう色彩計画は、自由通路、そことも連動しているんですか。

○中田街路課課長補佐

はい、連動しております。

○柏尾委員

連動している、はい。

それからもう一つなんですけども、ここの点字ブロックの色彩計画なんですけど、このペデのパスを見ますと。

○岡河座長

ペデのパスというと2ページですか。

○柏尾委員

2ページです。

○岡河座長

はい、2ページ。

○柏尾委員

この点字ブロックをきちんとダークカラーでサンドイッチされています。この方法はふさわしいんですけども、先ほど、議題が違ったので出せなかったんですが、自由通路のほうの、この点字ブロックの色彩計画とちょっと違うことになっていますので、その辺の計画はどういうふうに、今、なっているかというのを教えてください。

○岡河座長

もう1回確認させてください。ペDESTリアンデッキと自由通路の色彩の関連性ということですか。特に歩道。

○柏尾委員

歩道点字ブロックの色彩計画です。ペデのほうはイエローのブロックをダークカラーでサンドしています。両側から。

○岡河座長

イエローの、サンドしているんですね。

○柏尾委員

視認性がとても高いですね。

○岡河座長

高い。要するによく見える。はっきり見える。

○柏尾委員

はい、よく見える。

自由通路のほうは、先ほどの資料でわかりますけども。これ、ライトカラーの上にイエローを乗せていますから、これ、弱視の方は認識ができないはずなんです。皆さんも目を細めてこれをごらんになると分かると思いますけれど。ですから、そこの計画が、実はあんまりされていないんじゃないかなというふうな印象を受けているんです。

○中田街路課課長補佐

実は御指摘のとおりでございまして、明度差に大きな差が生じます。ですが、今、自由通路のほうの示している色なんですが、このカラーコピーでは明度差があんまりないように見えますが、基本的にはその確保、1.5、2.0ですね。

○柏尾委員

輝度比。

○中田街路課課長補佐

輝度比を1.5以上確保するというを基本にしていますけども、2.0になるように、今、調整を考えておまして、どちらかといえば、ペDESTリアンデッキと同じような輝度比が確保できるようにしていきたいと思っております。

○柏尾委員

そこはよろしくお願ひしたい。

○岡河座長

今、ペDESTリアンデッキは2.0なんですか。

○中田街路課課長補佐

2.0です。

○岡河座長

2.0ですか。じゃあ、もし確保できれば、同じような差で。

○中田街路課課長補佐

いく予定です。

○岡河座長

いくような、それはそのほうがよいでしょうね。

○中田街路課課長補佐

はい。今、検討しております。

○柏尾委員

じゃあ、よろしくお願ひします。

○中田街路課課長補佐

はい。ありがとうございます。

○岡河座長

ほかに、岩重先生どうですか。

○岩重委員

私が思ったのは、4カ国語をサインに使われるということで。

○岡河座長

4カ国語というのは、日本語、英語、韓国語、中国語か。

○岩重委員

この文字を見ただけでも、日本語以外のところが小さくて見えないんじゃないかなと、歩きながら探していくのに。大きく見えなければいけないところを小さくして使う必要があるのかなと、今、思っています。

○岡河座長

外国語の表記って、一般的にはどういうふうを選択して判断されているのかな。広島は国際都市ですから。

○中田街路課課長補佐

基本的には、今、JR様の基準で4カ国語を最低表示するという方向性ですので、これを守っていきましょう。それと合わせようとしています。ただ、それ以上に6カ国語でという御意見もありまして、今、それを。

○岡河座長

あとフランス語と、もう一つ何語が加わるの、ポルトガル語か。

○中田街路課課長補佐

6カ国語については、今、調整中でして、最低4カ国、これは守ろうかなと思っておりますが、プラスして6になる可能性もあると思っていただければと思います。今の時点では。

○岡河座長

字の、例えば日本語と、先ほど岩重先生の御指摘の外国語の大きさの差というのは、基本的にはJRさんの大きさの差をそのまま、一応ここでも使うということですね。

○中田街路課課長補佐

引用してやろうと思っております。

○藤井委員

東京で見ましたけど、こんなぐらいでしたよね。

○岡河座長

色なんかも、基本的には一緒にするということですか。

○中田街路課課長補佐

はい、基本的に。

○岡河座長

ほぼJRから連続でそのまま、もうサインは、駅のペデについてはそのまま連続してい

くということですね。

○中田街路課課長補佐

はい。

○岡河座長

よろしいですか。

ほかに各先生方、ございましたら何でも、この機会です。

○藤井委員

お願いしてよろしいですか。

○岡河座長

はい。

○藤井委員

お願いは、3ページ目の右下、ペDESTリアンデッキで、高欄が食いついているところがあつたパースがありますよね。こういうイメージになるというのは、地覆はコンクリートむき出しですか。

○街路課安野技師

これはちょっと見本で。

高欄のグラデーシヨン、ちょっとイメージということで、実際に地覆は埋め立てというかカバーで。

○藤井委員

カバーしているわけですね。

○中田街路課課長補佐

はい、してあります。コンクリートの打ちっ放しが出るようなことはいたしません。

○藤井委員

もし、こういう話で出るんでしたら、これ、高強度コンクリートを打つてほしいと思つて。橋を御覧になつて分かると思つたんですが、コンクリート橋、主構造の部分は汚れてなくても、地覆だけは真っ黒になりますよね。あれ、ろくなコンクリートを打つてないという証拠なんです。それは何年も使うと真っ黒になりますから、不細工そのものですよというので、その辺の締まりと、それから、高欄はポストが建ちますよね。

○中田街路課課長補佐

はい、建ちます。

○藤井委員

それ、埋め込みはやめましょうというのがお願いです。どうせ維持管理とか考えたら、埋め込んだらあまりよくないような気がします。

○岡河座長

そうですね。

○藤井委員

アンカーボルトで留めたほうがいいような気がします。

○岡河座長

見えるように。

○藤井委員

はい。

○岡河座長

これ、高欄そのもののデザインは、4ページにあるように、今、この写真よりはデザインされた形になるんですか。

○藤井委員

だから、これ、大丈夫ですね。

○岡河座長

それで、なおかつ埋め込みじゃなくて、要するにアンカーボルトで留めると。そうですね、埋め込むと、その間から水が入って、凍って、ろくなことになりませんね、確かに。

○藤井委員

あまりよくないです。

○岡河座長

そうですね。特に上のほうは気をつけられたほうがいいと思います。

○中田街路課課長補佐

ありがとうございます。

○岡河座長

ほかに各委員の先生、お気づきになられた点ございましたら。

○西村委員

私、20年以上前の台風19号がどうしてもまだ頭の中にあります。風の面では、こういうふうな構造そのものは大丈夫なんですか。

○中田街路課課長補佐

検討しております。

○岡河座長

でも、どれぐらいで検討されていますか。

この前、風速60メートルが来ると思って、私の建築のほうも、実は風の問題は、構造的な大きい問題はそんなにないんですけども、小さい部材が飛ぶんです。ビスが飛んだりとか。それ、全然構造計算していないんです、今までは。でも、これからはそういうふうなことも配慮しなくてはという状況がございまして、基本的には、構造体そのものに対しては問題ないと思うんですけど、二次部材ですね。

○中田街路課課長補佐

今、手元に資料がなくて恐縮ですけど、一応、検討のほう、特に膜屋根というようなものも使っておりますので、そういった強度はしっかり確保した上で対応したいと思っております。

○岡河座長

それから、ハニカムのパネルの留金具、その他の強度につきましても、可能な限り風の対応をしていただくということを、よろしく願いいたします。

○中田街路課課長補佐

はい。ありがとうございます。

○藤井委員

膜屋根なのでばたつきますよね。

○岡河座長

膜屋根はあんまり、でも怖くないんです。

○藤井委員

そうなんですか。

○岡河座長

逆に。いや、流れで誰かに当たったりとかがないから。当たっても膜は怖くないんですが、パネルとか金属の平板とかが飛ぶと、ガラスに当たって割れて、そこからまた風が入って中がぐちゃぐちゃになるとか、想定外のことがある可能性があるんで、特にこれからつくる建物については、細部の二次部材の強度。この前も大地震のときに天井が落ちた。あれも今まで検討していなかったんです。構造は一生懸命検討したんです。ところが、天

井が落ちると思ってなかったんです。ところが、今回、割とそういうことがあって、何人か事故でけがをされた方がおられたりとか。やっぱり建築のほうでも二次部材の強度についての取りつけとか、最近、いろんな情報がありますので、特に公共物で、しかも外部ですから、特に金属製のところを、よろしく願いいたします。

○中田街路課課長補佐

はい。ありがとうございます。

○西村委員

それと、今回のこの件とは関係ないんですが、植栽に、木のところで、広島市の花、キョウチクトウは使わないようにお願いします。なぜか、キョウチクトウは実は毒なんです。なるべくこういうところに使ってほしくない。広島市の花といいながら、駅前の花は、いわゆる毒があるものを置いていいものかどうか。

○岡河座長

どういう毒があるんですか、キョウチクトウは。

○西村委員

キョウチクトウの、例えば、私の知っているのは、これ聞いた話ですが、はっきりわかりません。弁当を食べるので、はしを忘れたからといって、ちょうど近くにあったキョウチクトウの木を切って、新芽が出たところを切ってから食ったんです。亡くなられたそうです。

○岡河座長

そんなに毒がある。

○西村委員

トリカブトに匹敵するぐらいの毒があるらしいです。

○岡河座長

新芽なんかの場合。

○西村委員

ええ。キョウチクトウの木は切っちゃいけないぞというような。

○藤井委員

キョウチクトウはよくお墓に供えますね。

○西村委員

そうですね。

○岡河座長

植栽計画は、最終的には、これ、どうなるんですか。今まで議題には乗らなかったんですけど。駅前の、この地域の。

○中田街路課課長補佐

そうですね、その広場の設計を、今、ちょうどやっておりますので、その中で、今の計画の中ではキョウチクトウを植えることにはしておりません。広島のカスノキ、そういった木を、今現在の広場にもありますけども、こういったものを生かしながらやっっていこうと思っております。

○岡河座長

カスノキはものすごく大きくなりますよね、あれは。

○中田街路課課長補佐

シンボルツリーのような生かし方をしながら、余り樹間が密にならないように、勢いよく伸びるように配慮して植えたいと思っております。

○岡河座長

ほかに各委員の先生方、何かございましたら何でも。

○鰐澤委員

虫よけのしょうのうかな。

○西村委員

そうかもしれません。

○伏見委員

何十メートル、巨大になりますよね。

○岡河座長

そうなんです、カスノキは30メートルぐらいになる、大きくなりますよ。

○西村委員

そして、カスノキの樹皮はそのまま大きく伸びるんですけど、中は崩れていくんですね、中心部が。

○岡河座長

うん、中が空洞になっているときがあるんですかね。

○西村委員

空洞になっている。強い風が吹いたら、特に上にあると倒れやすいんです。

○岡河座長

いかがですか。今日のアドバイザー会議、各先生、大体よろしゅうございますか。

それでは、本日予定しておりました議題は以上でございます。お疲れ様でございました。いろいろな有意義な御意見をいただいたと思いますので。

じゃあ一応、平成26年の第1回の広島市都市デザインアドバイザー会議を終了したいと思います。議事進行は事務局にお渡しいたします。

○山本都市デザイン係課長補佐

ありがとうございました。

皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、貴重な御意見、御提案をありがとうございました。JR西日本と事業者の方々及び本市街路課には、本日いただいた御意見を参考にして、今後の事業を進めていただきたいと思います。

それから、次回の会議につきましては、8月27日を予定しております。日時等が確定しましたら、正式に御案内をいたしますので、よろしくお願いいたします。

最後に日程調整方法についてのお願いがございます。会議の開催は、通常、年3回か4回となっておりますけども、各事業の進捗状況に応じまして、不定期に開催することとなります。事務局といたしましては、担当課と密に情報交換をいたしまして、なるべく多くの委員の方々に御出席いただけるよう、日程調整をさせていただきたいと考えております。その際、前もって、メール等で連絡をとらせていただきたいと思いますと考えておりますが、急な日程変更など、緊急時には携帯電話等により連絡をさせていただく場合もございますので、何とぞ御理解、御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

皆様、本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

○岡河座長

お疲れさまでございました。